病防第１４号
令和４年（２０２２年）６月２日

各関係機関長　様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和４年度（２０２２年度）病害虫発生予察注意報第１号を発表しましたので、送付します。

注　意　報

令和４年度（２０２２年度）病害虫発生予察注意報第１号

農作物名　　茶
病害虫名　　チャノミドリヒメヨコバイ

１　発生地域　　県内全域
２　発生時期　　５月下旬以降
３　発生程度　　平年比　多

４　注意報発表の根拠

（１）本年５月中旬に実施した巡回調査では、被害芽数7.6個／㎡（平年1.4個／㎡、前年0.6個／㎡）と平年比多の発生であった（図１）。

（２）茶業研究所（御船町）のたたき落とし調査では、５月第５半旬の捕獲頭数が13頭／10か所（平年４頭／10か所、前年６頭／10か所）と平年比多の発生であった。

（３）福岡管区気象台が５月26日に発表した九州北部地方１か月予報によると、向こう１か月の気温は平年並か平年より高い予想であり、今後も本害虫の増殖に好適な条件が続くことが予想される。

５　防除対策

本害虫は成虫、幼虫とも新芽や新梢を吸汁加害する。萌芽期から開葉期に被害を受けると葉の褐変や萎縮が発生し、落葉を引き起こす。更新園や幼木園等、常に新梢がある場合は被害が大きくなりやすく、また増殖場所にもなりやすいため、特に発生に注意し、以下の防除対策を行う。

（１）萌芽期から１葉開葉期に薬剤散布による防除を実施する。発生が多い場合、摘採を行う茶園では早めに摘採を行い、不摘採の茶園および幼木園では１回目の防除の約２週間後に異なる系統の薬剤で、新たなふ化幼虫を対象とした追加防除を実施する。

（２）薬剤散布の際には、すそ部を含め、新芽や新梢にもムラなく薬剤が行き渡るように十分な量を散布する。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

（３）農薬を使用する際はラベルをよく確認し、使用基準（収穫前使用日数や希釈倍数等）を遵守する。

（４）天敵への影響を最小限に抑えるため、選択性の高い農薬の使用を心掛ける。近隣のほ場へのドリフト及びミツバチや魚介類等、周辺動植物や環境に影響が無いよう、飛散防止を徹底し、危害防止に努める。

（５）二番茶摘採後は、剪枝等耕種的防除により、次世代の発生密度の低減に努める。

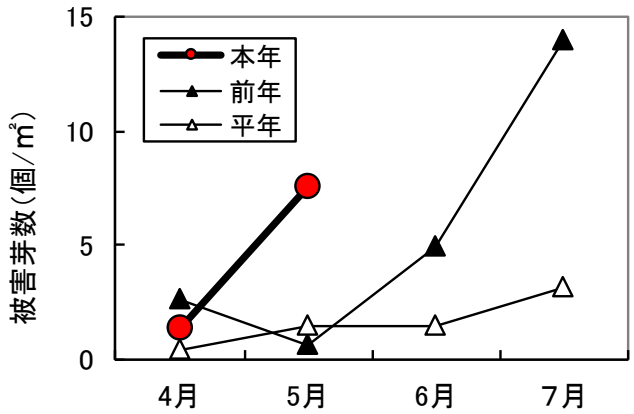

図1　ﾁｬﾉﾐﾄﾞﾘﾋﾒﾖｺﾊﾞｲ被害芽数の推移
※平年値は過去10か年平均

写真１　チャノミドリヒメヨコバイ成虫
（体長約３㎜）

写真２　チャノミドリヒメヨコバイ
老齢幼虫（体長約２㎜）

写真３　二番茶の被害（新葉の褐変・落葉）

熊本県病害虫防除所
（農業研究センター生産環境研究所内）
担当：岡島、福岡　　TEL：096-248-6490